

公共事業事前評価調書

[記入責任者職名 農村計画課長 荻野 憲一]

事業プロフィール

【事業概要】

ふりがな 事業名	かめまつ 亀松 地区 農地防災事業(湛水防除事業)
事業箇所	宇城市不知火町亀松地内
事業担当課(室)	計画 : 農林水産部 農村計画課 (調査計画班 内線 5496) 実施 : 農林水産部 農地整備課 (防災班 内線 5476)
事業期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度 (5 年間)
総事業費	1,767.0 百万円 (うち県費 565.4 百万円)
事業内容	受益面積 A=91.8ha 排水機場更新 1(2)箇所(Q=9.6m ³ /s 水中ポンプφ900×6台) 導水路 L=1.42km
事業目的	本地区は、宇城市の中央に位置し、二級河川大野川の下流部右岸と八代海に囲まれた水田地帯で、水稻とトマトの複合経営がなされている。 地区の排水は、地区内の排水路を経て、常時には排水樋門と常時用ポンプ(排水量0.45m ³ /s)から二級河川大野川と八代海に排水され、洪水時には不知火第1排水機場(S52設置Q=3.0m ³ /s)と不知火第2排水機場(S53設置Q=3.0m ³ /s)、亀松排水機場(H2設置Q=8.0m ³ /s)によって、二級河川大野川及び八代海へと強制排水されている。 しかし、不知火第1、第2排水機場は、供用開始から30年以上経過し、機能低下が見られるとともに、近年の気象変化に伴う降雨量の変化や、流域開発による流出量の増加により、湛水被害が年々増加するなど、農作物被害等が生じている。 このため、排水機場の更新整備を行い、流出量増加に対応する機能向上を図り、本地区の湛水被害を防止し、農業経営の安定化を目指す。

【現況写真】



上写真は平成20年6月21日の湛水時の写真、下写真は2日後の23日の写真。
畦畔、道路とも水没している。

【 検討状況 】

技術的難易度	標準的な工法で実施可能
費用便益比	B/C = 1.33
事業比較 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 事業を実施しない場合や代替案を含めて事業実施についての比較検討を行った内容(ソフト対策も含む) </div>	排水機場の老朽化と降雨量の増大、流域内開発による流出量増加により、湛水被害が起きやすい状況であることから、当該排水機場の機能向上をしない場合、降雨時の湛水被害のリスクが高まり、水稻、メロン、トマト、ナス等の安定した農業経営が不可能になる。 また、道路の冠水、宅地の浸水等の頻度が高くなり、地域防災機能が低下する。
関係法令等の手続きの把握・完了状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土地改良法(公表時の進捗状況に合わせて修正予定) ・海岸協議済み ・文化財協議済み(文化課から該当無しで回答あり)

【 周辺状況 】

関連事業	なし
市町村、地元の状況	地元で推進協議会を組織し、宇城市を通じ、早期着手を要望されている。
説明会の開催状況と関係者の意向	平成19年度の基礎調査から平成24年度の事業計画策定の間、段階的に説明会の開催及び要望内容聞き取りを実施し、排水先河川の状況、既設樋門の活用状況、導水路設置による灌漑への影響、排水機場の場所決めなど事業計画の個々の内容について、地元と調整を図ってきた。

【環境影響】

① 緑・自然生態系への配慮

	環境配慮事項	該当地域の有無等
1	希少な野生動植物や特定植物群落などの生息や生育地域及びその周辺地域に該当しないか。 〔ミズワラビ(植物)が生息する。工事施工範囲にミズワラビが発見された場合は、移植をもって保護する。〕	有
2	生態系の保全に重要な湿地、湿原、干潟又は藻場は存在しないか。	無
3	気候緩和、防災や景観保全機能に重要な役割を持つ森林、草原、街路樹等の緑資源が存在しないか。	無

② 地形・自然景観への配慮

	環境配慮事項	該当地域の有無等
1	自然景観資源、特異な地形・地質・自然現象等の優れた自然地形及びその周辺地域に該当しないか。	無
2	湧水、滝・溪谷、自然海岸など希少な自然地形及びその周辺地域に該当しないか。	無
3	自然地形の改変(切土、盛土)、構造物の設置、緑化等を実施する際の配慮を要する地域に該当しないか。	無

③ 水資源への配慮

	環境配慮事項	該当地域の有無等
1	水量、水質の保全に重大な影響を及ぼす水道水源等の上流域に該当しないか。	無
2	河川、海域、地下水等を汚染するおそれのある地域に該当しないか。 〔工事施工に伴って発生する濁水が河川に流出しないよう、工事の施工方法に留意する。〕	有
3	地下水量あるいは地下水かん養量を減ずるおそれのある地域に該当しないか。	無

④ 生活環境への配慮

	環境配慮事項	該当地域の有無等
1	史跡・名勝・天然記念物、歴史的建造物、町並み等有形の文化財及び埋蔵文化財等への配慮を要する地域に該当しないか。	無
2	大気汚染、騒音、振動、悪臭への配慮を要する地域に該当しないか。	無
3	周辺地域への日照障害、電波障害、光害や風害の防止への配慮を要する地域に該当しないか。	無
4	住宅地や集落地などの地域コミュニティ分断への配慮を要する地域に該当しないか。	無
5	水辺へのアプローチの確保と親水空間の創出に配慮を要する地域に該当しないか。	無

事業評価表

①基礎的事項の評価: 評点 I

評価項目	評価内容	配点	判定	評点
基礎的事項	下記のすべての項目を満たすこと	60	○	60
地元推進体制の整備	①受益者に対する事業計画内容、負担金等の説明		○	
	②事業推進協議会、土地改良区又は関係市町村の事業推進体制		○	
	③営農推進組織の設置(生産基盤整備事業のみ)		該当なし	
	④維持管理方法及び費用等に関する予定管理者との協議		○	
	⑤財産譲与を受ける体制		○	
環境	①田圃環境整備マスタープラン又は農村環境計画の策定		○	
	②地域環境情報会議の実施と、環境配慮の検討		○	
事業関係者、関係機関との協議、調整	①施設所有者、消防関係者、漁業者、NTT、JR、地元関係者等と調整		○	
	②文化財関係部局との調整		○	
	③河川管理者、道路管理者等との事前協議		○	
事業内容	①要綱・要領等に規定された事業内容、採択要件への適合		○	
	②受益地が農振農用地であることの確認		○	
	③地域、営農、流通上の一体的な受益設定	○		
	④関係法令、基準等への適合	○		
	⑤地形、地質、水利状況等からみた、技術的可能性	○		
他農業農村整備施策や生産調整との整合	①他の農業農村整備に関する施策との調整	該当なし		
	②生産調整の達成状況(生産基盤整備事業のみ)	該当なし		
必要性～計画の検討度	①すべての項目でE評価を満たすこと	○		
		60	評点 I 計	60

②必要性(重要性)、緊急性、事業効果(効率性)、計画の検討度の評価: 評点 II

a=4点、b=3点、c=2点、d=1点、e=0点

評価項目	評価内容	配点	判定	評点
必要性(重要性)	①農業、農村の発展等の観点からの必要性	4	c	2
	②各種計画への位置づけ(事業計画の位置付け)	4	b	3
	③事業の広域性(市町村合併支援)	4	d	1
	④地域の状況(過疎、振興山村、離島振興、半島振興、特定農山村の指定: 特定地域振興)	4	c	2
	⑤受益者の熱意	4	b	3
	⑥農用地の有効利用による食料供給力の強化	4	e	0
		24	計	11

評価項目	評価内容	配点	判定	評点
緊急性	①他の公共事業や施策(ソフト)との関連	4	e	0
	②他農業施策との関連	4	b	3
	③施設の老朽化による機能低下	4	a	4
	④周辺農地や宅地等への被害の可能性(防災事業対象)	4	a	4
		16	計	11

評価項目	評価内容	配点	判定	評点
事業効果(効率性)	①費用対効果の算定	4	b	3
	②事業完了後の営農計画の見込み(生産基盤整備事業のみ対象)	0	該当なし	0
	③担い手への集積について(担い手育成型の事業のみ)	0	該当なし	0
		4	計	3

評価項目	評価内容	配点	判定	評点
計画の検討度	①コスト縮減の検討	4	d	1
	②事業費単価(該当事業のみ対象)	0	該当なし	0
	③用地取得に係る権利関係の調整(該当事業のみ対象)	4	c	2
		8	計	3

項目数 13	/	配点計 52	*	40	=	評点 II 22
(必要性(重要性)～計画の検討度の評価: 評点 II の配点40点)						

③総合評点

評点 I 60	+	評点 II 22	=	総合評点 82
------------	---	-------------	---	------------